

グループ会社のシナジー

旧株式会社森精機製作所と旧GILDEMEISTER（ドイツ、ブランド名「DMG」）が2016年に完全経営統合して誕生したDMG MORI。統合以前から、融和的な企業買収や事業継承により、積極的に技術、ノウハウを取り込み、事業成長につなげてきました。今後も、内部成長に加え、適宜M&Aを行うことにより、お客様にとってのベスト・パートナーであり続けます。

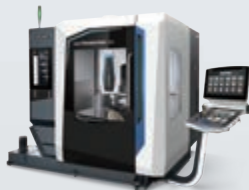
TAIYO KOKI

現 太陽工機

業界初の立形グラインディングセンタを開発した同社のグループ会社化により、切削工程から研削工程まで一気通貫で提供可能に。
(2025年に100%グループ化)

現 DMG MORI Ultrasonic Lasertec (ドイツ)

セラミックス、ガラス等の脆性材料やシリコンの加工を可能にする超音波技術を有する旧SAUER社をグループ化。



現 DMG MORI Poland (ポーランド)

高品質のターニングセンタに強みを有していた旧 FAMOT社のグループ化が、その後中欧最大の工作機械基幹部品の生産拠点に発展。

現 DMG MORI Pfronten (ドイツ)

立形フライス盤、NCボール盤、マシニングセンタで業界でも卓越した知見を有していた旧Deckel Maho社の事業譲受が、のちの5軸加工機での技術優位につながる。

旧 森精機製作所
設立

1948

旧 GILDEMEISTER設立

旧 日立精機

複合加工機に強みを持つ旧日立精機社の日本事業譲受により、製品ラインの強化と同時に、販売プレゼンスを東日本にも拡大。

旧 DIXI machines (スイス)

きさげ技術を含む、工作機械の高精度・高剛性技術を獲得。旧森精機製作所初の海外生産拠点として、海外生産ノウハウを蓄積。



2001

2002

2007

2008

DMG MORI
DIGITAL

現 DMG MORI Digital

ソフトウェア開発を行う旧ビー・ユー・ジー社は、現在CELOS X、MAPPSやCELOS DYNAMICpost等を開発。



DMG MORI Precision Grinding / 太陽工機を
100%グループ化

DMG MORI
CASTECH

現 DMG MORIキャストック

旧渡部製鋼所によるベッド、コラム
など鋳物の内製化により、安定供
給と品質向上を実現。

旧 アマダマシンツール

アマダより小型ターニングセ
ンタ事業を譲り受けたことに
より、製品ポートフォリオに小
型ターニングセンタが加わ
る。WASINOブランドとして
展開。

DMGと協業開始

2009

Magnescale

現 マグネスケール

現ソニーグループより超精密計測
機器事業を買収。半導体製造装置
や工作機械の重要部品である、スケ
ールやセンサなどの超精密計測機
器技術を獲得。



SAKI

現 サキコーポレーション

実装基板や半導体のインライン
自動検査システムメーカーに持
分法適用開始(2023年に
100%グループ化)。次世代通信
システム、EV化分野での顧客層
拡大に貢献。

2016

2015

2010

2020

DMGと
完全経営統合

DMG MORI
PRECISION BORING

現 DMG MORI
Precision Boring

旧倉敷機械が強みをもつ
CNC横中ぐりマシニング
センタにより、製品ラインア
ップをさらに強化。

2024

2025

DMG MORI

- ☑ グローバル・ワンの
工作機械メーカー
- ☑ ワンストップでお客様の
課題解決
- ☑ 日・欧・米を融合した
企業文化

グループ会社紹介

株式会社マグネスケール

神奈川県伊勢原市鈴川45番地 <https://www.magnescale.com>

Magnescale

磁気と光の超精密位置検出技術で製造・計測装置の高精度化に貢献

株式会社マグネスケールは、磁気と光を中心とした検出原理の高精度位置検出システムを、工作機械や産業機器の分野に半世紀以上提供し続けています。金属切削のような過酷な現場でも信頼性を発揮する「マグネスケール」、2.1ピコメートルの高分解能で最先端の半導体製造装置や超精密加工機の品質向上に貢献する「レーザスケール」、製造・組立工程で発生する「測る」をデジタルで支える「デジタルゲージ」の製品群に加え、JCSS (Japan Calibration Service System=計量法トレーサビリティ)の長さと角度の校正事業者の認定も取得し、

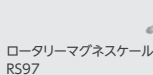
国家標準にトレーサブルな製品を提供しています。最先端の半導体製造装置のキーデバイスであるレーザスケールは需要が拡大しており、その供給責任も重くなっています。生産能力の拡大とBCP対応のため、2024年に奈良県にレーザスケール新工場を着工、2026年から操業を開始する予定で建設を進めています。今後、レーザスケールもマグネスケールも2拠点で生産できる体制を構築し、商品力とサステナビリティで企業価値を高めていきます。



超高分解能三次元計測
レーザスケール



高精度マグネスケール
SQ47



ロータリーマグネスケール
RS97



デジタルインジケータゲージ
μMATE+



DMG MORI Precision Grinding / 株式会社太陽工機

TAIYO KOKI

新潟県長岡市西陵町221番35 <https://www.taiyokoki.com/>

カスタム対応でお客様のニーズを実現 グラインディングセンタのグローバルメーカーへ

株式会社太陽工機は、卓越した創造性と技術力で立形グラインディングセンタを開発することで知られるグラインディングセンタの専門メーカーです。金属加工の最終工程を担うグラインディングセンタは、工作機械の中でも最も高い精度を求められます。太陽工機はお客様の多様なニーズに応えるために、小型機から大型機、大量生産から多品種少量生産にいたるまで幅広い展開で、自動化までのトータルソリューションを提供しています。

創業は1986年。2001年にDMG MORIグループの一員となり、2007年にはJASDAQスタンダード市場へ上場(2025年2月に上場廃止)。現在は年間約200台の様々なグラインディングセンタを製造しています。同社は国内市場においては立形グラインディングセンタの開発・販売をリード

してきていますが、2030年までに売上高185億円を目指すにはさらなる海外市場の開拓が必要となっています。

DMG森精機株式会社は2024年11月にTOBを通じ株式会社太陽工機を完全子会社化するための公開買付を実施し、2025年2月に完全グループ化しました。DMG MORIグループのグローバルな販売・サービス網と開発リソースを迅速かつ柔軟に活用し、太陽工機のさらなる成長を実現できると考えています。

また、同じ新潟県長岡市に本社工場を構えるDMG MORI Precision Boringとの生産や開発での連携強化を目指し、2027年に長岡新本社工場が操業開始予定です。DMG MORIグループのシナジー効果の最大化と長岡エリアでの事業拡大、企業価値の増大を推し進めていきます。



CNC立形複合グラインディングセンタ
Vertical Mate 85 2nd Generation



CNC立形複合グラインディングセンタ
CVG-6 with MATRIX



DMG MORIキャステック株式会社

島根県出雲市大津町1378 <https://www.dmgmori-castech.com>

DMG MORI
CASTECH

環境負荷が少ない生産手段による高品質な鋳物製品の安定供給

DMG MORIキャステック株式会社は、工作機械の主要部品であるベッド、コラムなどの鋳物を生産しています。鋳物は、工作機械の精度、剛性、耐久性を決める重要な部品であり、高い品質の維持と安定的な調達量を確保することが重要です。また、鋳物の製造や調達には多くのCO₂排出を伴うため、その対策も必要です。これらの課題に対応するために、2022年から本社工場の建て替えを開始し、生産能力の拡大及び生産設備の入れ替えを実施しています。さらに2024年からは、廃却される工作機

械の鋳物や機械工場から機械加工で排出された鋳物の切りくずを原料として使用しています。廃棄される工作機械を最新の工作機械へ生まれ変わらせる取り組みを開始することにより、さらなるCO₂排出量削減を行っています。引き続き建て替え工事を進め2030年までに本社工場の建屋の建て替えを完了させ最新の生産方式へ見直しを行うことにより、生産過程におけるさらなるCO₂排出量削減を行うとともに現在の年間生産量を30,000トンまで増やします。これにより大物鋳物を中心に国内生産拠点の鋳物の年間必要量に対して75%程度を供給することになります。DMG MORIキャステックは鋳物の安定調達に貢献し、生産工程におけるCO₂排出量削減に努めます。



DMG MORI Precision Boring株式会社

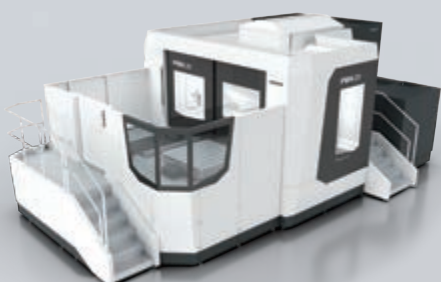
新潟県長岡市城岡1-2-1 <https://www.dmgmori-pb.co.jp/>

DMG MORI
PRECISION BORING

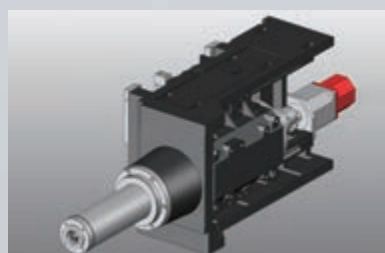
大物・重量ワーク、重切削加工に最適なボーリングマシンをグローバル展開へ

1938年に新潟県長岡市で創業、2024年にDMG MORIグループとなったDMG MORI Precision Boring株式会社(旧倉敷機械株式会社)は、80年以上の歴史をもつボーリングマシンのリーディングカンパニーです。大型ワークを高精度に加工するDMG MORI Precision Boringのボーリングマシンは、自動車や半導体を始め、医療やエネルギーにいたるまで、様々な分野で活用されています。JIMTOF2024で参考出品した新しいボーリングマシン「PBN20」はお客様の生産性を向上すべく、“ボーリングマシンとマシニングセンタのハイブリッド”を基本コンセプトとして開発し、ボーリングマシン特有の高い剛性と切削能力、ワイドな加工エリアと大きな

搭載能力をそのまま維持しながら、マシニングセンタに匹敵するビルトインモータ主軸を初採用し回転数8,000 min⁻¹、クラス最高の送り速度12,000 mm / minを実現しました。剛性とスピードを兼ね備え、加工の多様性がさらに広がります。DMG MORI Precision Boringでは、この新機種を含め、ボーリングマシンを中心として2030年に売上高120億円を目指しており、これを早期に達成できるよう、世界各国のグループ会社の協力を得て、欧州を始めグローバルな販売、サービス網の拡大と、お客様にとってさらに魅力ある製品づくりに邁進していきます。



ボーリングマシン
PBN20



ビルトインモータ主軸

グループ会社紹介

DMG MORI Digital株式会社

北海道札幌市厚別区下野幌テクノパーク1丁目1番14号 <https://www.dmgmori-digital.co.jp/>

DMG MORI
DIGITAL

ITソリューション開発でMXの推進に貢献

DMG MORI Digital株式会社は、1980年に北海道大学発ITベンチャー「株式会社ビー・ユー・ジー」として札幌に設立、ソフトウェアとハードウェアの高い技術力を背景に事業を展開し、2008年に当社のグループ会社となりました。DMG MORIが2024年に新機種への搭載を開始した、新たなヒューマンマシンインタフェース「ERGoline X with CELOS X」をはじめとしたオペレーションソフトウェアや工作機械を使うお客様をサポートするPCソフト、機械をネットワークに接続するコネクティビティ分野の開発を行っています。



ERGoline X with CELOS X

2024年にはDigital E3 Core シリーズ「エッジAI ボード」を開発しました。本製品は、カメラでの撮影とAI処理が可能な組込CPU基板です。厳しい品質基準をクリアした高い信頼性が特長で、2025年に生産するDMG MORIの工作機械より、「AIチップリムーバル」への搭載を開始します。2030年に向けて、優秀なIT人材の確保・育成を継続し、ITソリューション開発でDMG MORIのMX推進に貢献します。また、そのなかでグループ外へも販売できる競争力のある製品・サービスを開発し、DMG MORIグループの収益拡大に貢献していきます。



テクニウム株式会社

東京都江東区枝川3丁目1番4号 DMG MORI東京デジタルイノベーションセンタ <https://www.technium.net/>

TECHNIUM

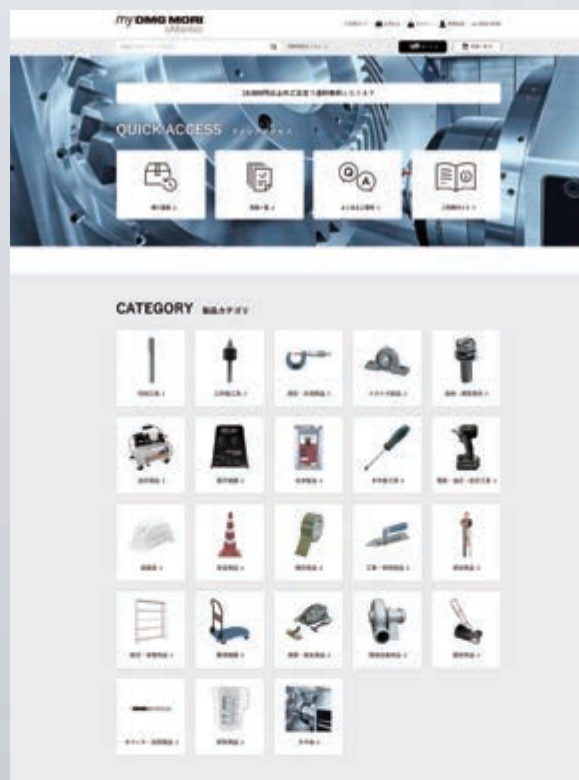
MX戦略に不可欠なDX要素を提供

テクニウム株式会社は、2018年にDMG森精機株式会社と株式会社野村総合研究所により共同で設立され、お客様のデジタル変革(DX)を支援してきました。テクニウムのミッションは、DMG MORIのMX戦略に不可欠なDX要素を提供することです。

2024年は、新しい制御装置「CELOS X」とともにクラウド環境「CELOS Xchange」をリリースしました。これにより、お客様の機械データを安全かつ拡張性がある状態で様々なアプリケーションで活用できるようにする計画です。

さらに、カスタマーポータル「my DMG MORI」上に「eMarket」を立ち上げ、工作機械関連商品のEコマースを始めました。DMG MORIのエンジニアが推奨する製品をお客様がいつでも簡単に再購入できる環境を整え、付属品の調達効率を向上させていきます。

今後は中小企業向けのDX支援を強化し、2030年に向けて「my DMG MORI」と「CELOS Xchange」を中心にサービスを拡充していきます。my DMG MORIは工作機械関連のニーズを包括的にカバーするポータルに、CELOS Xchangeは工場の機械データを管理するハブとして進化させ、これらのプラットフォームに接続するユーザーをさらに増やしていきます。



株式会社サキコーポレーション

SAKI

東京都江東区枝川3丁目1番4号 DMG MORI東京デジタルイノベーションセンタ <https://www.sakicorp.com/>

電子部品実装工程向け自動検査装置で工場の製造品質に貢献

株式会社サキコーポレーションは、電子モジュールの製造工程で目視に代わり実装基板の画像を撮像し良品 / 不良品の自動判定をする品質検査ソリューションを提供しています。

2024年4月8日、サキコーポレーションは創立30周年を迎えました。節目の2024年は、最先端のお客様ニーズに対応したスピーディーな開発に邁進し、X線自動検査装置の拡販に結実しました。今後は光学検査+X線検査+ソフトウェア+アフターサービスを組み合わせたトータルソリューションの提案に磨きをかけ、新たな市場への本格進出を目指します。機械学習&自動検査のソリューション拡充を進めており、自

動運転やビッグデータで時代を牽引する車載・産業分野の顧客層拡大、ひいてはDMG MORIグループ全体の顧客基盤拡大に貢献します。これからも、お客様の製造品質と生産効率を支える自動検査のプロバイダとして、デジタル社会の絶対品質にひたむきに取り組み、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。



機械学習&自動検査のトータルソリューション

株式会社T Project

T Project

東京都江東区枝川3丁目1番4号 DMG MORI東京デジタルイノベーションセンタ <https://tprj.co.jp/>

現場主導のDXを実現するクラウド型ローコードプラットフォーム「TULIP」を販売

株式会社T Projectは2020年9月の設立以来、米国Tulip Interfaces社が開発した「TULIP (チューリップ)」の日本国内での販売サービスを行っています。TULIPは製造現場の様々な業務をITの専門知識不要でアプリ化でき、自社人材主体で現場のニーズに寄り添ったデジタル化を行えます。測定機器のデータ取得や単一の工程改善から状況や課題を見える化し、継続的改善に寄与します。さらにプロセスチェーンの工程業務全てをアプリ化し生産設備・基幹システムとの連携まで対応可能なため、スモールスタートでのデジタル化を足掛かりに全社視点での業務変革(DX)へと進めていきます。

DMG MORIのグローバル生産拠点で導入が進み、生産性・品質向上や社内のDXに貢献しています。またTULIPを体験できる「TULIPエクスペリエンスセンタ」が岡山に開設され全国7カ所に広がったこともあり、導入済企業での活用拡大とプロセス系など幅広い製造業で新規導入が進み、顧客数は50社を超えました。

2030年に向けて、多種多様な製造業の全社・全工場レベルでの活用ケース増加を目指しています。



株式会社WALC

walc

東京都渋谷区渋谷三丁目26番20号 <https://www.walc.co.jp/>

自動化・DXの最先端サービス開発拠点

株式会社WALCは2022年4月1日に東京・渋谷に設立されました。WALCは、製造業のデジタル革命を主導する人材の育成の場として2017年に設立した「先端技術研究センター」を引き継ぎ、MXを推進するサービスを提供することを目的としています。2023年には自律走行ロボットWH-AMR (Autonomous Mobile Robot)の開発がDMG森精機株式会社から移管され、工作機械と連携した工具・ワークの自動搬送を行うソリューションを開発することでお客様の生産現場における稼働率向上・省人化に貢献しています。また、工作機械の予兆保全を行う「WALC CARE」及び既設の工作機械への後付けに対応した「WALC CARE KIT」を開発し、お客様の設備の稼働率最大化を支援しています。

2030年にはさらに自動化が進み、自由度の高いAMRがますます重要となると考えて次世代のAMRの開発を進めています。自動化が進めば機械の稼働率が高くなりますが、それに伴って予兆保全や機械アラームのハンドリング、スペアパーツや消耗品の供給など、今は人が行っている領域をDX化する必要を見込んでいます。高度なデータサイエンス人材の集積拠点ともなっており、DXに必要な先進的なサービスの開発にも取り組んでいきます。



価値創造プロセス

財務・非財務価値

Our Capital

マーケティング・販売・サービス資本

- グローバル拠点124カ所
- 海外直販・直サービス網

開発資本

- 日・独・米を中心としたグローバルでの開発体制
- 売上高比5%の開発投資

知的資本

- 業界リーダーとしてのノウハウ蓄積
- 知財群の形成
- 計測方法等の標準化

製造資本

- 世界17カ所の生産拠点
- キーコンポーネンツの内製化

人的資本

- 61国籍、約13,500名のダイバーシティ
- 充実した教育プログラムの提供

社会・関係資本

- グローバルでのブランド力
- パートナー企業との共存共栄

自然資本

- 工場屋根を利用した太陽光発電
- 主要拠点の美しい景観

財務資本

- 収益率改善
- 積極的な設備投資

Output

最適な加工提案

- ワーク図面から商談を開始



業績安定

- 高付加価値案件へのシフト
- 低価格・短納期案件からの脱却



マーケティング

開発

販売・サービス

主要部品内製・調達

MX
MACHINING
TRANSFORMATION

工程集約→自動化→GX
by DX

人と機械の協調

景観



NLX 2500 | 700 2nd Generation
+ 自動化 (バーフィーダ)



NZ TRE
+ 自動化 (Robo2Go)



安全な職場環境

- 「よく遊び、よく学び、よく働く」を体現



フロンテン工場

生産の安定

- お客様の中長期の設備計画にコミット

DMG MORIでは、財務・非財務の資本を8つに分けて考えています。
これらは、MXの推進という事業モデルを通じて付加価値の高いアウトプットを生み、
新たな経営資源となるという好循環によって増強されていきます。

Outcome



財務成果

- 利益率の向上
- キャッシュフローの創出



市場シェア

- 5軸加工機・複合加工機における主導的立場の確立



新市場

- 多国籍企業の複数拠点への設備導入にも一括対応



イノベーション 原動力

- 全業種のトップ企業の要求から生まれる最先端技術



生産技術ノウハウ

- 自社製品を用いた部品内製
- 営業秘密の厳重な管理体制



バリューチェーン 全体の共存共栄

- パートナー企業の周辺機器の販売推進



環境負荷低減

- 生産効率化で仕掛品や不良品を削減、経営資源を有効活用
- 電力消費量低減



お客様ニーズの 的確な汲み取り

- 自動化や教育によるオペレーター不足ニーズの開拓

グローバルでの ブランド力

- 日・欧・米で
Global Oneの地位確立

多様な ラインアップ

- 工程集約により
専用設備を代替

事業所周辺の 美観

- 近隣の耕作
放棄地の活用

全世界で稼働している 工作機械

2024年 約500万台



2050年 約100万台

オペレーター不足改善

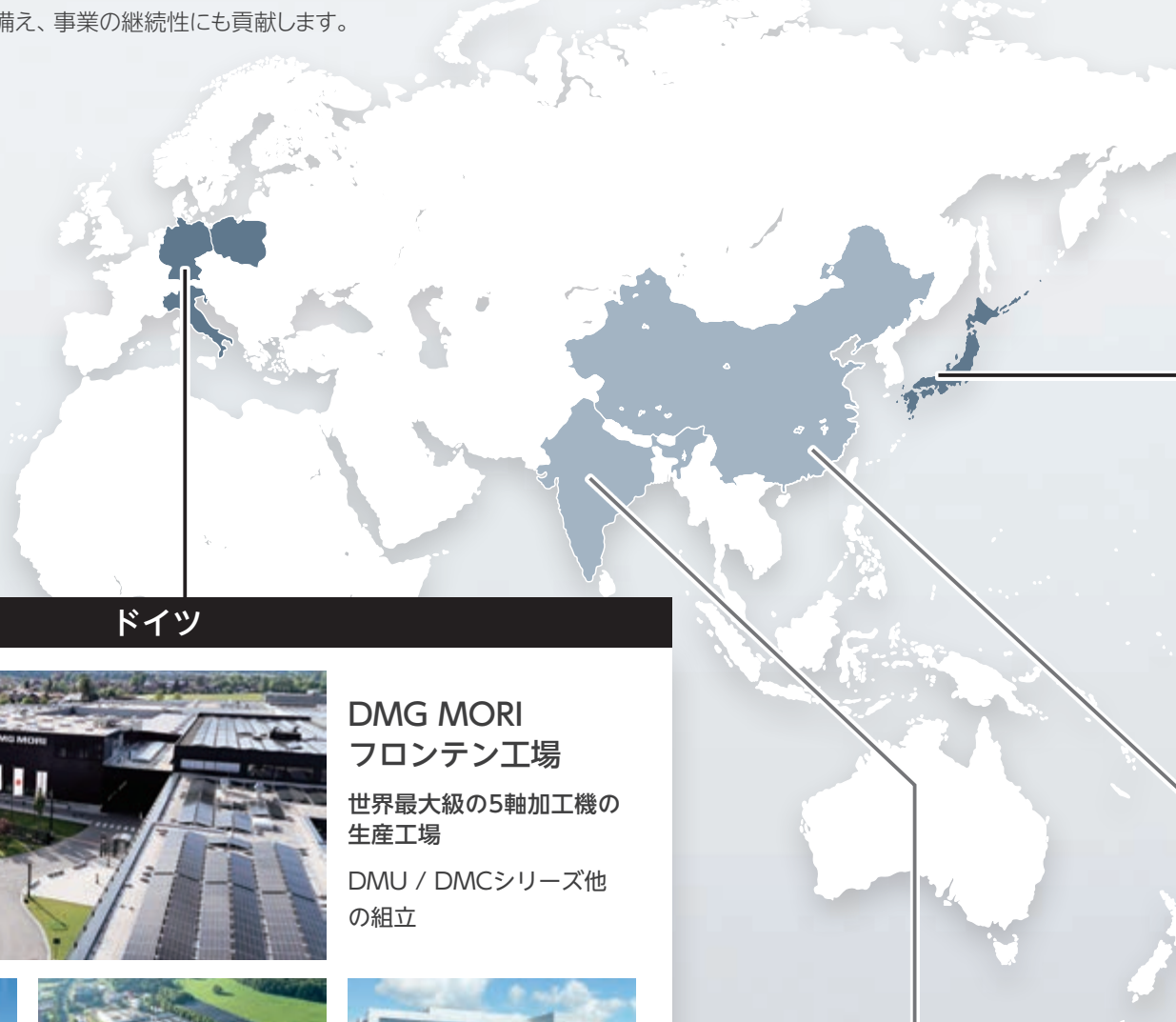
2050年の
ミッション

高精度加工実現、 生産効率改善

環境負荷低減

グローバルに分散された生産拠点

DMG MORIはグループ内最大規模の伊賀事業所やドイツのフロンテン工場をはじめとして国内外に生産拠点を有し、需要地での生産を可能にしています。このことは、輸送の効率化に加え、多様なお客様ニーズへの迅速な対応を可能にしています。また地政学リスクに備え、事業の継続性にも貢献します。



ドイツ



DMG MORI フロンテン工場

世界最大級の5軸加工機の
生産工場

DMU / DMCシリーズ他
の組立



DMG MORI
ビーレフェルト工場



DMG MORI
ゼーバハ工場



DMG MORI
Ultrasonic Lasertec工場

ヨーロッパ



DMG MORI
ポーランド工場 (ポーランド)



DMG MORI
ベルガモ工場 (イタリア)



DMG MORI
トルトナ工場 (イタリア)

インド



LMW Limited
(コインバートル) 〈生産委託〉



日本

伊賀事業所

世界最大級の複合加工機、ターニングセンタ、マシニングセンタの生産工場



奈良事業所

工作機械業界で世界最大級の自動化システムターンキー工場



アメリカ



デービス工場

中国



天津工場



平湖 (Pinghu)工場

グループ企業（日本）



マグネスケール



DMG MORI Precision Grinding / 太陽工機



DMG MORIキャストック



DMG MORI Precision Boring



サキコーポレーション

品質経営

デミング賞受賞

1.TQMの導入

従来、当社はディーラーを介した機械単体販売を行っていましたが、お客様の声を直接お聞きし、提供できる価値を拡大するために2010年代半ばに直販化を開始しました。直販・直サービスに切り替えてからは、ロボットによる自動化や周辺機器を含めたシステム提案等の新たなニーズへの対応、詳細な稼働情報に基づくサービスの提案など、ビジネスを拡大してきましたが、拡大と同時に様々な品質上の課題にも直面するようになりました。

また、2009年に旧株式会社森精機製作所とドイツ旧ギルデマイスター社が資本・業務提携を開始しましたが、両社の強みが明確になる過程で、仕組みで仕事をすることを学ぶとともに、伊賀事業所が中心となって提供している品質管理の考え方をより洗練させてグローバルに展開することが、お客様に安心して機械を使っていただくために有効であると考えました。

このような流れの中、品質管理を強化する取り組みを行っていた時に、お客様からTQMを紹介いただき、2017年にTQMを導入するに至りました。

2.TQMを学びデミング賞に挑戦

TQM導入後、品質管理やQC手法について学び、トップダウンによる重点テーマ活動とボトムアップによるQCサークル活動の両面から改善を進め、2020年にTQM診断を受けました。TQM診断では、方針の浸透が不十分であり、プロセスマネジメントができていないという厳しいコメントをいただきました。この結果を受けて、再度基礎から学び直す必要性を認識し、2021年から階層別TQM教育を実施するとともに、部門別にPDCA、SDCAサイクルの実施状況について外部講師から助言を受けつつ、各職場における業務に即したTQMの活用について理解を深めてきました。さらに、QC検定の受検推奨による理解者の裾野拡大、品質管理ベーシックコースへの受講者派遣によるSQCエキスパートの育成など、社員の知識向上にも取り組みました。

そして、2022年に中期経営計画2025を策定するにあたり、当社の競争優位要因が何であるかを考え、2030年に

ありたい姿を明確にしました。中期経営計画の3年間は、2030年にありたい姿を実現し、お客様、パートナー企業、社員、社会等の多様なステークホルダーに価値を提供するための組織能力の基盤を作る時期です。まさにこれまで学んできたTQMの実践であり、2030年に向けた発展のために、通過点としてデミング賞に挑戦することになりました。結果として、当社伊賀事業所が2024年度のデミング賞を受賞いたしました。

3.特徴的なTQM活動

(1)ビジネスモデルの構築

技術の高度化と複雑化に伴い、お客様のニーズも多様化しています。また、工作機械はお客様の生産活動を支えるものであり、10年以上にわたってお客様との関係が継続します。お客様の期待に応えるため、当社では工作機械の導入前から廃棄にいたるライフサイクル全般を通じてお客様に寄り添い、生産に最適なソリューションを提供するビジネスモデルを構築してきました。また、それを実現するための仕組みを整備するとともに、組織能力の実装を進めています。多様なお客様ニーズに応えてきた実績の蓄積が、お客様に安心して設備投資していただき、導入後の設備の安定稼働による収益向上に貢献する好循環を生み出しています。

(2)経営の伝承

当社は経営者がお客様の声を直接お聞きし、社会ニーズの変化も捉えて、時代に合った製品・サービスを市場に投入することで発展してきました。近年はお客様のニーズが多様化し、組織も大きくなってきて中で、次世代の経営者の育成が課題となっていました。そこで、中期経営計画を策定する際に、今後経営を担っていく中堅社員から構成される6つの分科会を立ち上げました。

分科会の役割は計画の策定にとどまらず、社内への説明や計画実行段階での進捗管理など、運営の多くを任されています。月次の中期経営計画全体会議では、中堅社員が具体的な取り組み内容を発表し、経営者がそのプロセスに対してコメントすることで、中堅社員へのコーチングの場にもなっています。

(3)人づくり

TQMで最も重要な要素の1つが人材育成であり、当社

では社員の階層に応じた教育を行っています。中期経営計画を策定したタイミングで、経営者依存から変化に自律的に対応できる体質への転換を目指し、DMG MORIの社員に必要な9つのスキルを明確にしました。9つのスキルは、MXを実現する上での課題や、目指すべき社員像、反面教師にすべき社員像をイメージし、深い議論の上で定められたものであり、多くの社員にとって納得感のあるものになっています。

全社員がこれらのスキルを身につけることができるように教育体系を整備するとともに、各部署での人材育成を促すために「管理者教育」を行いました。管理者教育は、管理者の役割や心構えを定めた「管理者ガイドライン」に基づいて、管理偏重から育成重視に意識配分を変えるための教育です。今後経営を担っていく社員から19名を講師として選拔し、係長以上の全社員が受講しました。

(4)TULIPを活用した日常管理

工作機械はワークを高精度に加工するためのマザーマシンであるため、製造段階で非常に高い精度が要求されます。また、近年はお客様の個々のニーズに対応するため、1台1台仕様が異なることが少なくありません。さらに、1工程当たりの作業時間が非常に長いことも特徴です。これらの特徴から、膨大な量の手順書やチェックシートが必要となり、長時間の複雑な作業の中でヒューマンエラーが発生するという課題がありました。

そこで、デジタルプラットフォーム「TULIP」を活用し、決まったプロセスに従った場合のみ次工程に進めるような仕組みを構築しました。センサやデジタルツールを用いて、可能な限り自動でデータを収集するようにしたことで、トレーサビリティを確保するだけでなく、誤りがあった場合はすぐに気付くことができるようになりました。当社ではTULIPを製造現場以外の日常管理でも広く活用を進めています。

4.今後の展望

デミング賞への挑戦を通して、お客様が当社に何を求めているかを今一度真剣に考え、仕組みで仕事をすることの重要性を再認識しました。今回のデミング賞受賞を通過点として、PDCAを回しながら構築した仕組みを進化させていく所存です。また、TQMの活用範囲を国内の他拠

点やグループ会社、そしてグローバルに拡大することで、持続的な発展につなげたいと考えています。当社はこれからも、工作機械を中心としたトータルソリューションプロバイダとして、ライフサイクルを通じてお客様の求める製品・サービスを提供し、社会課題の解決と企業価値の向上に邁進していきます。

※デミング賞：戦後の日本に統計的品質管理を普及させ、日本製品の品質を世界最高水準に押し上げた 故ウィリアム エドワーズ デミング博士の業績を記念して1951年に創設されたTQMに関する世界最高ランクの賞。(日本科学技術連盟ホームページより)

※TQM：経営管理手法の一種。Total Quality Managementの頭文字をとったもので、日本語では「総合的品質管理」と言われる。企業活動における「品質」全般に対し、その維持・向上をはかっていくための考え方、取り組み、手法、しくみ、方法論などの集合体と言える。そして、それらの取り組みが、企業活動を経営目標の達成に向けて方向づける形になる。(日本科学技術連盟ホームページより)



会社の概要

2024年12月31日時点

会社名	DMG森精機株式会社	主な 事業内容	工作機械(マシニングセンタ、ターニングセンタ、5軸加工機、複合加工機、アディティブ・マニファクチャリング機及びその他の製品)、ソフトウェア(ユーザーインターフェース、テクノロジーサイクル、組込ソフトウェア等)、計測装置、修理復旧サポート、アプリケーション、エンジニアリングを包括したトータルソリューションの提供
資本金	71,230百万円		
設立	1948年10月		
グローバル 本社	東京グローバルヘッドクォータ 〒135-0052 東京都江東区潮見2丁目3-23 TEL：03-6758-5900(代)		
第二本社	奈良商品開発センタ 〒630-8122 奈良県奈良市三条本町2番1号	従業員	13,951名(連結)
		Webサイト	https://www.dmgmori.co.jp

IRカレンダー

DMG森精機株式会社

2025年3月27日	第77回 定時株主総会	2025年8月1日	2025年度 上半期決算発表(予定)
2025年5月7日	2025年度 第1四半期決算発表(予定)	2025年10月30日	2025年度 第3四半期決算発表(予定)

株主メモ

事業年度	毎年1月1日～12月31日	同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-782-031(通話料無料) 受付時間 9:00～17:00 (土日祝日および年末年始12/31～1/3を除く)
期末配当金 受領株主確定日	毎年12月31日		
中間配当金 受領株主確定日	毎年6月30日		
定時株主総会	毎年3月	上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 プライム市場
株主名簿管理人 および特別口座 の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.dmgmori.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問い合わせください。
- 払渡しの期間経過後の未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行全国本店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く)でお支払いいたします。

Webサイトのご案内

Webサイトにて当社の企業情報を随時公開しています。

商品紹介、各種リンク、サポート情報などを掲載しているほか、コーポレートページではニュースリリースなどもご覧いただけます。
また、株主・投資家情報ページにて決算説明会の様子をオンデマンド配信しています。



<https://www.dmgmori.co.jp/corporate/>

DMG MORIは、
以下のSNSで
情報発信しています。



X



Instagram



LinkedIn



YouTube



Facebook



TOPページ



コーポレートページ



株主・投資家情報ページ

TVCM、ミニ番組のご案内

TVCM [DMG MORI × Front Runner]

先進的かつ独自の取り組みをしておられるお客様を、
業界注目のフロントランナーとしてご紹介して
おります。日々進化する生産現場の取り組みを、
ぜひご確認ください。

放 送

BSテレビ東京

毎月第1・2日曜
23:25頃(「ガイアの夜明け」終了後)

※番組編成が行われる場合は、放送時間の変更の可能性がございます。



TVCM
Front Runner
シリーズ

DMG MORI presents
港時間

ミニ番組「港時間」

世界の港にスポットを当て、世界各国の綺麗な港まちや風景を伝え、
それぞれの港の生活や、そこに根づく文化、人々とヨットとの
関わりについても紹介しています。



テレビ朝日
番組サイト

放 送

関東エリア

テレビ朝日

毎週土曜 22:54~23:00

関西エリア

ABCテレビ

毎週金曜 23:10~23:17

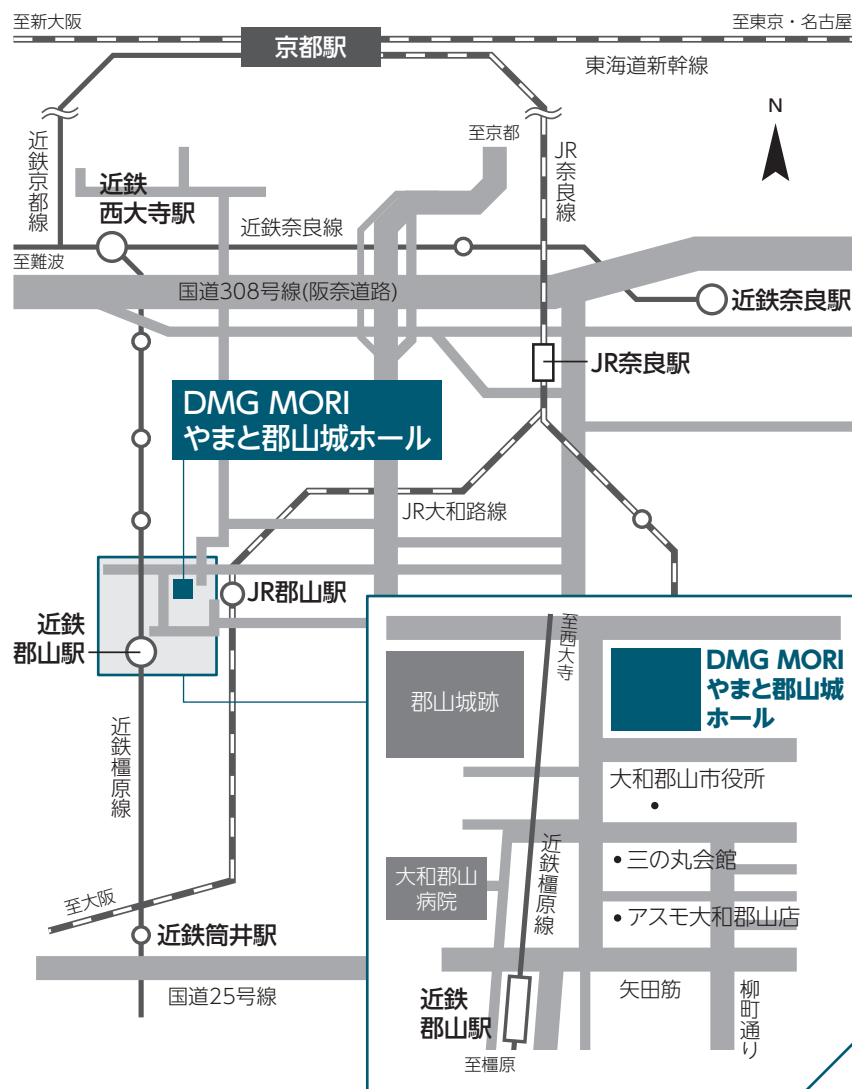
中部エリア

メ〜テレ

毎週日曜 17:25~17:30

※番組編成が行われる場合は、放送時間の変更の可能性がございます。

株主総会会場ご案内図



会場

奈良県大和郡山市北郡山町211番地3
DMG MORI やまと郡山城ホール 大ホール

お知らせ

ご来場にあたりましては、当社として専用の駐車場は
ご用意しておりません。
また、会場までのシャトルバスの送迎はございません。
公共交通機関のご利用をお願い申し上げます。

鉄道のご案内

- ◎近鉄郡山駅より 徒歩7分
- ◎JR郡山駅より 徒歩15分

バスのご案内

- ◎奈良交通バス
停留所「やまと郡山城ホール」下車すぐ
- ◎大和郡山市コミュニティバス
元気城下町号・元気平和号（近鉄郡山駅方面行き）
停留所「やまと郡山城ホール」下車すぐ



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

